

建築向け遮熱塗料外販

冷房料金40%低減

NIPPO

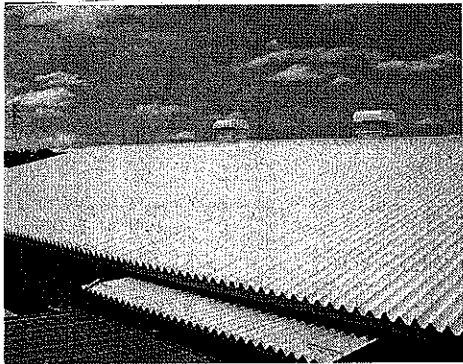
NIPPOは、屋根などに塗布することで室内の温度上昇を抑制する遮熱塗料の販売を開始した。遮熱舗装の開発に利用した遮熱塗料「ミシクル」の販売を8月から開始しており、舗装工事の営業を含めて、工場や商業施設の屋根、トラックコンテナなどへの利用と塗装工事の施工を提案している。ミシクルは、太陽光の近赤外線を反射することで、建築物などの表面温度の上昇を抑制し、室内の温度上昇を2～10度低減できる。多くの企業が節電対策に乗り出していることから、NIPPOは来夏を見据え、PR活動も強化する。

生産施設などに積極提案

ミシクルは、熱反射性の高い特殊な遮熱顔料と、中空セラミック微粒子の反射効果によって、太陽光の近赤外線を効率よく反射する。屋根の材

質によっては室内の温度上昇を2～10度抑制することが可能で、冷房に伴う電気料金を最大約40%低減できる。電子設備の保護施設、保冷庫やコン

作業環境の改善、保管物（75）が制定されたこと品の品質維持効果が期待できる。
ミシクルは、シロキ、兼松、NIPPOがそれぞれ出資するミシクル（東京都中央区、白木良彦社長）の製品。国内で300万平方以上の施工実績があり、タイ、中国、マレーシアでの採用も増えている。遮熱塗料をめぐっては、多くの製品が登場しているものの、7月に屋根用高日射反射率塗料の品質や試験方法などに関する日本工業規格（JIS、K56）を見込んでいたという。



ミラクールを採用した折半屋根倉庫